中 ②

「ありがとう」で未来を拓く

美野里中　三年　中本（なかもと）　佳吾（けいご）

「ありがとう（有り難う）」

この言葉は、過日行われた東京オリンピックの閉会式でも電光掲示板に映し出され、世界に向けて発信された。

私もこの言葉が好きだ。人を元気にし、心を温かく包み込む不思議な魅力をもった言葉だと思う。元々は「めったにないこと」という意味の形容詞「有り難し」がウ音便化したもので、枕草子には「ありがたきもの」と題して、「存在しがたいもの」として挙げられている。

そんな言葉が、いつの頃からか、一般的なお礼の言葉として使われるようになり、今では世界中の人々が知る言葉へと成長した。

私は野球部に所属しているが、野球の中でもこの「ありがとう」が頻繁に交わされている。例えば、攻守交代の際に、試合に出てい

コクヨ　ケ-10　20×20

ない仲間が、グラブや飲み物などを用意し、差し出してくれるとき。試合に出られず、悔しい思いをしている仲間が、陰ながらサポートしてくれることは当たり前のことではなく、まさに「有ることが難しい、ありがたいこと」なのだと思う。だからこそ自分は、必ず仲間に「ありがとう」という言葉をかけることを忘れないようにしている。

しかしながら、野球を離れると、自分もこの一言が言えないときが多々ある。毎日自分の生活を支えてくれている両親に、会えば笑顔で声をかけてくださる地域の方々に、自分の身近な仲間や先生方に。思い返せばきりがない。感謝しなければいけないことはわかっているのだが、面と向かうと恥ずかしくてなかなか言い出せない。自分の周りで、自分を支えてくれていることが当たり前ではないことはわかっているのに。

私自身、「ありがとう」という言葉には何度も救われ、勇気づけられた経験がある。凹

みを抱え、苦しくて何もかもが嫌になったとき、自分の無力さに気付き自己嫌悪に陥ったとき、目の前の壁が越えられず挫折しそうになったとき。いつだって仲間や身近な人たちが自分を励まし、認め、感謝の言葉をかけてくれたときさえあった。そんなときはいつだって「ありがとう」は最高の言葉だ」って感じた。

数々の犯罪や非行、そしてコロナウイルスが蔓延し、普通の日常を普通に送ることが難しい今、最も大事にしなければいけないのは人への感謝の気持ちなのではないだろうか。犯罪を未然に防ごうと、昼夜問わず私たちの生活を守ってくださっている警察関係者の皆様や自分の命を危険にさらしながら、最前線でコロナ感染者の治療にあたっている医療従事者の方々。そんな人たちへの「ありがとう」の気持ちが溢れる世の中にしたい。人と人の間で「ありがとう」という言葉がたくさん交わされる世の中をつくりたい。

コクヨ ケ-10 20×20

犯罪や非行は、なくならない。しかし、人を思いやる気持ちと自分を支えてくれている人に感謝する気持ちがあれば、寸前のところで思い止まれると信じている。「ありがとう」という言葉には、人を幸せにする力があると思う。日本が、世界が、そんな優しい気持ちで溢れる世の中になればいい。私はそう願いながら、自分の力で未来への階段を一歩一歩歩んでいきたい。

コクヨ ケ-10 20×20